

実践記録（中2・学級活動）

1 ねらい

インターネットの特性について理解し、スマートフォンをはじめとする情報機器を安全に使用できるようにする。

2 手立て

- ・ Yチャートの活用

「法的に問題（がないか）」 「他人に迷惑（がかけられないか）」 「自分に悪影響（がないか）」 の3つの観点で話し合い活動を行うために、自分の意見を付箋に書き込みYチャートに貼る。

- ・ フローチャートの作成

投稿前に気を付けなければならないことをまとめるためにフローチャートを作成する。投稿前にチェックする内容をフローチャートとして表す。

3 実践の様子

グループごとにYチャートを配布し、上記の3つの観点で話し合わせた。生徒は、視聴した教材について良くなかったことを付箋に書き、問題であると考えた観点に付箋を貼った。「法的に問題」の観点の欄には、「盗撮にあたる」や「著作権法の侵害」など、法律を意識した記入が見られた。「他人に迷惑」という観点には、「（撮影禁止の場所で撮影すると）シャッター音が迷惑」や「他人に精神的苦痛を与える」などの意見が見られた。「自分に影響」の観点には、「自分の評判が悪化する」や「悪い噂が広まって友達がいなくなる」、「後で見て自分が恥ずかしくなる」などの意見が見られた。

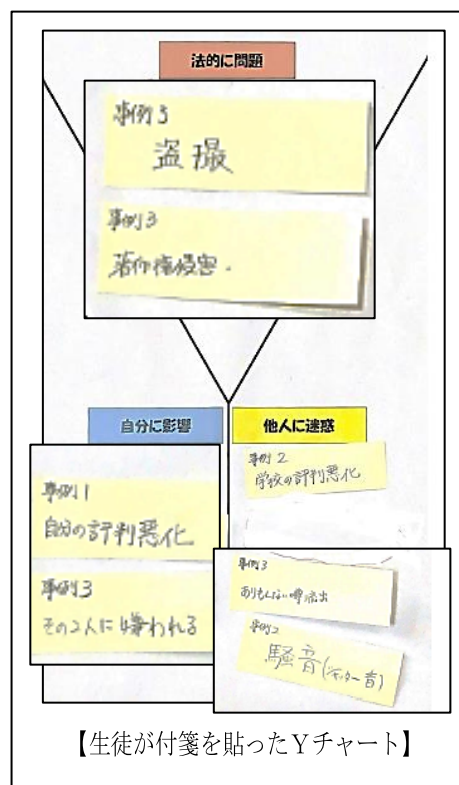
次に、投稿前の手順を考えるためにフローチャートを作成するためのワークシートに取り組んだ。生徒はそれぞれの観点から付箋を一枚選び、フローチャートに貼っていった。フローチャートはYESだけを選んで進むと「投稿ダメ」という結論になるようにした。

何も考えずに投稿した場合にどのようなリスクを自分が背負うのかといったリスクマネジメントを考えて情報機器を使うことができるようになってほしいと考えて、この形式にした。

「法的に問題」の欄に「名誉棄損」という付箋を貼った班からは、「相手が嫌な気持ちになる」や「その人の評判が下がる」、「最悪、捕まる」といった意見が挙がった。また、「自分に影響」の欄に「学校がばれる」という付箋を貼った班は、今後考えられる影響として、「退学になるかも知れない」や「自分の個人情報 がばれるかも知れない」という考えを記入した。このように、フローチャートを活用し、リスクマネジメントを考えさせることで、投稿する前に確認すべきことを意識させることができた。

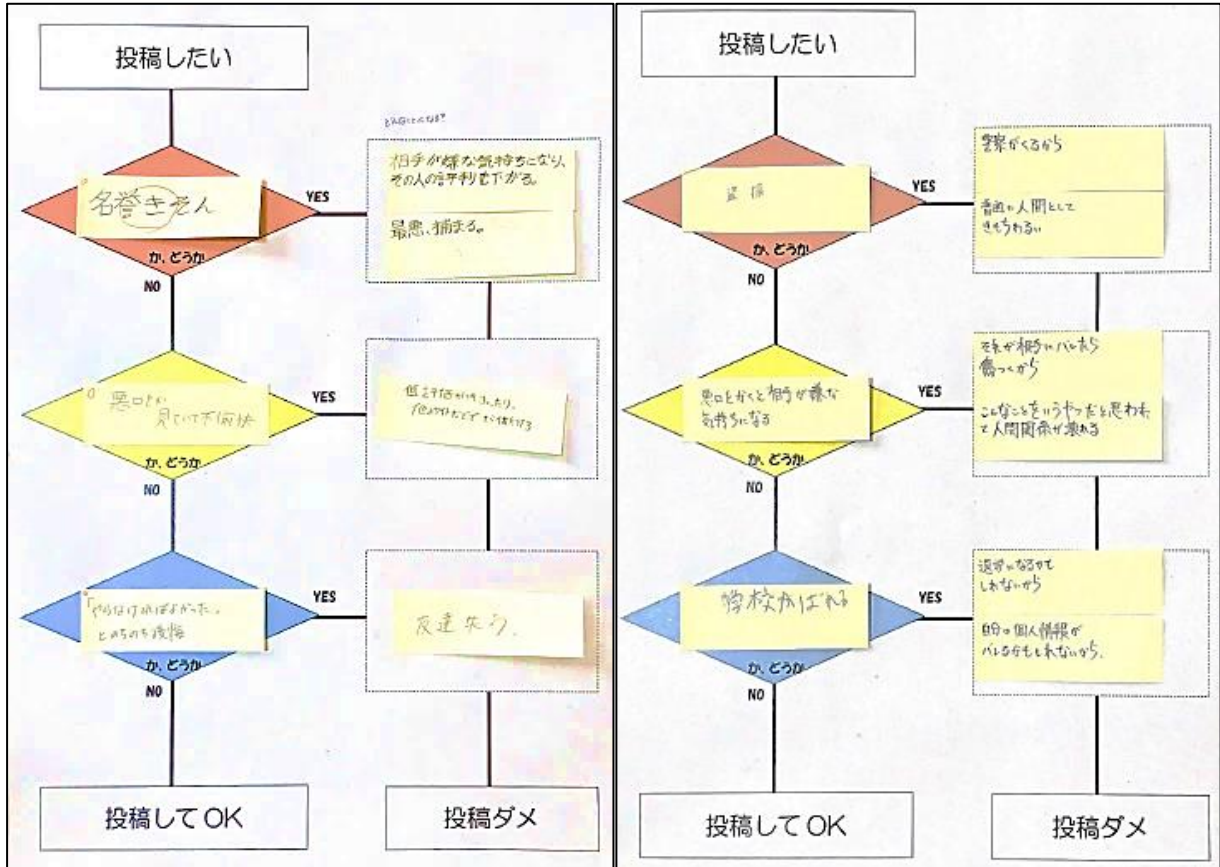
4 成果と課題（成果…○、課題…●）

- Yチャートを活用することによって、3つの視点から問題点を考えることができ、情報機



器を使う際は「法的に問題がないか」や「他人に迷惑をかけないか」、「自分に悪影響がないか」といった観点から自分の行動を見直す必要があることを理解させることができた。

- フローチャートを活用することによって、投稿する際に気を付けなければならないことをまとめることができた。
- 事例によっては、投稿する前に3つ以上のチェックが必要になるものもある。様々な事例に対応することができるようにフローチャートの形を改良していく必要がある。
- 情報機器を使用する場面は主に家庭であるため、学んだことを家庭で生かす手立てを考えていく必要がある。



【完成したフローチャート】